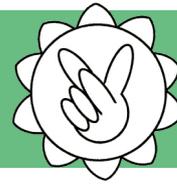




1 スポーツ交流会は、「体を動かさない人が多い」という聴覚障がい者が運動するきっかけにも。2 野外研修は、旅行が楽しめないことも多い聴覚障がい者の会員にとって、心から楽しめるひと時。3 毎週木曜日の定例会では、和気あいあいと手話の勉強や情報交換。

聴覚障がい者ととも歩んで30周年 桂川手話の会



◀▲桂川手話の会ロゴ。町花「ひまわり」に「ケ」を示す手話が描かれています。

桂川手話の会は 今年で30周年

「平成3年に、桂川手話の会の手話教室に行き、初めて手話を習いました」「今は、手話の会の人たちとメールのやりとりをしたり、色々な活動に参加しています」「聞こえなくても、楽しく生活しています」

桂川手話の会創立30周年記念式典。その中のミニ講演会で、桂川手話の会会員の一人は、手話を使って自身の手話の歴史をそう表現しました。

昭和62年に結成された桂川手話の会は、聴覚障がい者を含め、現在、会員52人で活動。毎週木曜日、昼の部・夜の部の2回、総合福祉センター「ひまわりの



桂川手話の会
右田 よう子 会長

里」で定例会を行っています。「通訳の練習や新しい手話の勉強はもちろん、ゲーム形式で手話を楽しむ活動も行っています」と話すのは、右田よう子会長。

手話を楽しむことが一番

「以前は、表情が暗い聴覚障がい者が多かったんです。それは、聴覚障がい者の方が、他人とうまくコミュニケーションを取れないことが一因でした」と右田さんは振り返ります。

そんな状況を「なんとかしたい」と、手話の会では様々な事業を実施しています。

スポーツ交流会や野外研修で会員同士の交流を深めるほか、各種手話教室や、毎年秋に開催される「ひまわりフェスタ」で来場者向けに手話体験教室を実施。

手話の普及や会員数の増加が目的の活動もありますが、やはり一番の目的は「手話を楽しむことにある」と話す右田さん。それを証明するように、手話の会会員は常に笑顔が絶えません。

「桂川町は、行政や社会福祉協議会がとても協力的でありがたい。聴覚障がい者の家族の方にも「ここまでやっている地域はなかなかない」と喜ばれています」

手話通訳が 必要ない町に！

最後にこれからの桂川町の手話について、「桂川町全体の手話に対する機運がもっと高まることで、最終的には、手話通訳の必要がないぐらい手話が浸透した町になってほしいですね」と右田さんは笑顔で話していました。

手話の会の活動に興味がある方は、手話の会事務局にご連絡いただくか、8月から開催予定の講習会にぜひご参加ください。

【問合せ先】桂川手話の会事務局
(桂川町社会福祉協議会)

☎ 65・2271